

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年11月24日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.67】

松崎氏は退任後も組合費で高級車提供の破格の厚遇！

今号からは、松崎氏が2009年1月26日に「週刊現代裁判」の法廷で自ら証言した内容を紹介し、JR総連・東労組の組織内での処遇などについて検証していく。

松崎氏は2002年に東労組の顧問を退任し組合役職を退いたと自ら述べているが、その後組合費で車やボディガードを提供されていたことについて、以下の通り証言した。

(被告代理人)顧問を退くときに、組合の役員から、顧問といった役職がないと組合の車を付けることができないと、だから是非とどまってくださいといったようなことを言われたことはありますか。(松崎)覚えておりませんが、あったかもしれません。(代理人)JR東労組の顧問を退かれた後、JR東労組から車をあてがうというんですかね、あるいはあなたが相当自由に使える状況にはまだなっていたんでしょうか。(松崎)はい、いろいろ提供してもらったと思います。(代理人)それは顧問という一線を退かれたというあなたの先ほどの言葉もありましたけれども、組合という組織あるいは団体からして、どういうことで何の役職にも就いていないあなたに車の提供というのがなされていたんでしょうか。ご存じでしょうか。(松崎)多分、私の身を案じていろいろと手だてを尽くしてくれたと思っていますから、特に奇異を感じておりません。(代理人)それは襲撃されるからということですか。(松崎)ということもあります。(代理人)本件記事ですと、あなたに提供されていた車というのは、ボルボ、ベンツ、クラウン、プラウディアというんでしょうか、そんなようなものが提供されていたといった記事が掲載されておりますけれども、これは事実としてはそのとおりなんでしょうか。(松崎)はい、そのとおりです。(代理人)車種の選択についてあなたが何か意見を述べるということはあるんですか。(松崎)あります。(代理人)それはどんなことでしょうか。(松崎)ベンツはもともと私が並行輸入をした新古車を私が買ったわけです。で、私が乗っていたんですけども、それについて、組合がそれは持つからということになったんで、ベンツについてはそうです。後に非常に強い車ということでボルボ等については組合が手配をしてくれました。(代理人)ベンツを利用するに当たっては、ごつい車では国会や議員会館に行くときに格好が悪いと、だからベンツにするよということでこれにしたということはありませんか。(松崎)最初からそのつもりもありました。(代理人)それから、襲撃という危険性があるというお話もあったかと思いますが、顧問という役職を退かれた後、あなたの身边にいつも、警備というんですか、警護というのか、あるいは安全を守るというのか、そのようなことをしてくれる人は付いていたのですか。(松崎)おりました。(代理人)今も付いているの。(松崎)おりません。(代理人)これはボディガードということですかね。(松崎)まあ、そういうこともあるでしょうが、いろいろと私のために動いてくれるということは、秘書的な役割というのは強かったと思います。

ボルボにベンツにクラウンにプラウディア、組合員は納得しているのか！

松崎氏は襲撃の危険があるとか、国会に行くのに格好が悪いというとの理由で、自ら車種を選択し次々と専用高級車を購入させ、ボディガードも付けていた。そもそも革マルとの無関係を強調しながら、襲撃の危険があるというもおかしな話だ。そして、組合員は、組合費による同氏への役職退任後も続いた破格の厚遇に納得できるのか。JR総連・東労組の一般組合員は、この事実を知って、怒り心頭だろう。